



国産スギ材（かごしま材）による ツーバイフォー（2×4）用材の供給

株式会社さつまフィンウッド
代表取締役 林 雅文

株式会社さつまフィンウッドは、株式会社伊万里木材市場（佐賀県伊万里市）、山佐木材株式会社（鹿児島県肝付町）、鹿児島県木材協同組合連合会（鹿児島県鹿児島市）の共同出資により2013年11月に設立しました。2011年に鹿児島県曾於市に開設した伊万里木材市場南九州営業所を中心とした新たなスギ材の需要開拓のための国産スギ材のJAS製品化事業を鹿児島県へ提案したことが出発点となっております。本事業は①新たな需要開拓はマーケットインであること②川上から川下をつなぐサプライチェーンの構築の2つのポイントをもとに国産スギ材の新たな市場として、2×4工法用材量産化への取り組みを開始しました。

2×4工法は、北米の主力木造工法であり本工法に用いられる使用部材については、北米産のSPF（スプルース・パイン・ファー）材が圧倒的なシェアを占めており、国産材の使用例はごく一部にとどまっていた。国産スギ材の利用が進まない背景には、①当時2×4工法用材のJAS規格に国産スギ材を評価基準に入れていなかったこと②SPF材と競争できる価格で安定供給が出来なかったことなどが挙げられます。

このような中で、JAS規格に関しては国産スギ材の評価がなされ、2015年3月に改正されました。また、SPF材と競争できる価格での安定供給に関しては、ハウスメーカーとの安定供給契約を基に川中の製材工場、伊万里木材市場の原木供給をサプライチェーンで結ぶことにより対応することが出来ました。

競争力のある価格を確立するためには、川中、川上を通していかにコストダウンが可能となるか

生産方法を検討することが必要となります。この生産方法の検討においては県工業技術センターに大変お世話になりました。県工業技術センターとの共同研究で、製材の木取り、天然乾燥管理方法の確認、フィンガージョイント材性能の確認など技術的な裏付けを実施することで生産方法の検討を行うことができ、高品質な2×4用材の生産が可能な生産設備を構築することが出来ました。

現在は、実際に生産設備が稼働したことにより明確になってきた課題に関して、県工業技術センターの力をお借りすることで改善を行い、国産スギ材2×4用材の発展に取り組んでいます。



(株)さつまフィンウッドの航空写真



当社製 2×4住宅用部材